株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

September 13, 2024

ポンド、8 月 CPI 確認後 MPC に注目

◆ポンド、8 月 CPI を確かめて MPC に注目
◆加ドル、8 月のインフレ指標を注視
◆米・日の金融政策に振らされる展開

予想レンジ
ポンド円　183.00-190.00 円
加ドル円　102.50-106.50 円

9 月 16 日週の展望

ポンドは 19 日にイングランド銀行（英中銀、BOE）が公表する金融政策に注目だが、その前日に発表される 8 月消費者物価指数（CPI）を確かめる必要がある。また 18 日（日本時間 19 日未明）は米連邦公開市場委員会（FOMC）、20 日には日銀金融政策決定会合の結果が明らかにされる。週半ば以降に控える複数の重要イベントを控え、為替市場はかなり神経質に上下しそうだ。

前回の 7 月 CPI は前年比 2.2%上昇と 7 カ月ぶりに拡大。目標の 2.0%に並ぶ水準から上振れた。一方、前月比は 0.2%低下と半年ぶりにマイナスに沈んだ。また CPI コア指数も前年比 3.3%上昇と、約 2 年 10 カ月ぶりの低水準を記録。しかしながら、短期金融市場では追加利下げへの機運は強まらず。BOE が注目するサービス価格の上昇率が鈍化したとはいえ 5.2%と高い水準であり、今回もサービスインフレに注意する必要があるだろう。

英中銀金融政策委員会（MPC）では、政策金利は現行の 5.00%で据え置かれるとの見方が優勢。ポイントは、11 月と 12 月の年内残り 2 会合で 0.25%ずつの利下げを織り込んでいる市場の期待に沿った声明内容となるかどうか。また、MPC 委員の投票行動も注視される。利下げ決定の 8 月会合ではベイリーBOE 総裁を含めた 5 名が 5.25%から 5.00%への金利引き下げを支持した一方、中銀チーフエコノミストでもあるピル委員など 4 名が据え置き主張と僅差だった。今回は、5 月以降ハト派寄りの姿勢を示していたラムスデン副総裁の行動に注目している。

加ドルもまず、17 日の 8 月 CPI の結果を受けた動きとなるだろう。市場予想は前年比 2.1%上昇と 3 年半ぶりの低水準が見込まれている。予想に沿った結果であればカナダ中銀（BOC）のインフレ目標 2%をほぼ達成した形にもなり、来年春まで利下げを織り込む市場の見方を後押しすることになる。なお、マックレム BOC 総裁は先日、さえないカナダ雇用データを受けて「さらなる利下げを予想するのは妥当」と述べた。6 日発表された 8 月雇用統計では、新規雇用者数が 2.21 万人増と予想に届かず、失業率は 6.6%と前回から悪化予想の 6.5%より更に悪かった。

カナダ CPI への反応一巡後は、経済的な繋がりが強い米国の金融政策を受けた対ドル動向に付いて行く展開となりそう。大幅な米利下げ観測は後退したものの、今後の利下げペースへの思惑は定まっておらず、声明や経済・金利見通し、パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長の会見内容次第で値幅を伴う動きとなりそうだ。また、日銀会合に関連した報道などにも注意したい。

9 月 9 日週の回顧

クロス円はリスクセンチメントの強弱に振らされた。ポンド円は週初に 188 円前半まで上昇したところから失速し、約 1 カ月ぶりの安値 183.72 円まで一時下落。加ドル円も 106 円台乗せで頭を抑えられ、8 月 5 日以来の安値 103.50 円まで売り込まれた。ポンドドルは 1.31 ドル前半から弱い英経済指標も重しに 1.30 ドル手前まで下押しするも、再び 1.31 ドル台を回復した。加ドルは原油先物の軟調さも背景に対ドルで 1.36 加ドル前半まで加ドル安に傾く場面があった。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.